



モノづくりへの熱い想いと卓越した技術力を武器に、さらなる飛躍を遂げる

植平工業株式会社 奈良県宇陀市

公共事業の縮小により、関連業界では新しい事業展開が喫緊の課題となっている。そういったなか、グレーチング（鋼製みぞぶた）などを製造する、植平工業株式会社は、「今の体制の中で利益を出せる状況を維持しつつも、一般消費者が買うような新しい製品づくりにも注力する」を念頭に事業を展開。モノづくりへの熱い想いと卓越した技術力を武器に、さらなる飛躍を遂げる。

会社概要



会社名：植平工業株式会社
所在地：奈良県宇陀市大宇陀区大東 203-1
電話：0745-83-3011
FAX：0745-83-3045
創業：昭和48年3月
設立：昭和51年1月
代表者：代表取締役社長 植平 秀次
資本金：1,000万円
従業員：20名
事業：グレーチング（鋼製みぞぶた）
および一般土木用資材の製造販売

昭和48年3月頃から行っていたグレーチング（鋼製みぞぶた）製造で培った技術を活かして新製品の開発に努め、昭和57年の道路災害の防止に着目した「落石防護柵」を皮切りに、交通網の発達による歩・車道分離対策としての「鋼製張出歩道」など数々の製品を開発・製造するなど、公共事業等で使用される土木工事用の鉄鋼二次製品を中心に業績を伸ばしていった。その後、工場の拡張や増資、そして平成10年には、取扱製品の多様化に伴って商号を植平工業株式会社に変更し、現在に至っている。現在の売上構成は、土木メーカーへのOEM供給が50%、グレーチングが20%、オリジナル商品が10~15%、その他加工が15~20%である。



落石防護柵（左）と
鋼製張出歩道（右）



本社および工場の外観



会社設立の変遷

植平工業株式会社（当時：植平グレーチング工業株式会社）は、昭和51年1月に植平コンクリート工業株式会社から分離独立して設立。独立前の

取り巻く環境の変化に対応

近年、取り巻く環境の変化から公共事業のマーケットが縮小し、新しい事業の展開と販売チャネル見直しの必要に迫られてきた。同社では、「今の体制の中で利益を出せる状況を維持しつつも、一般消費者が買うような新しい製品づくりにも注力する」ことを念頭に置いた経営の方針を掲げた。「今まで培った技術力を活かせば、ありとあらゆる金属加工が可能である。後は『売れるもの』をいかにして見つけるかが勝負」であった。そこで、同社では個人消費財に販路を求めて製品を開発した結果、平成16年には「メタルサインを中心と

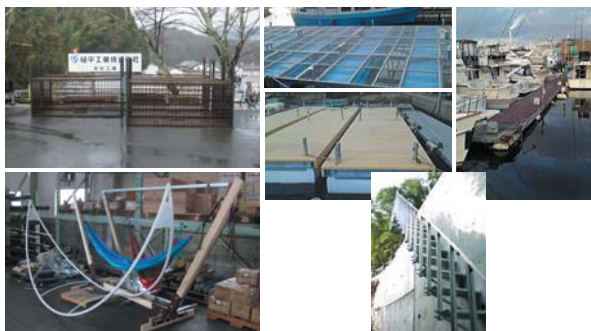
する鉄製品による新規市場での拡販とDM、インターネットを活用した新規販売方法の確立」が奈良県より経営革新計画として承認された。メタルサインとは一品ずつ鍛冶職人が手作りで作製する鋼製の表札。製品は「鉄」が持つ独特の風合いがあり、インテリアとして人気が高く、販売は好調に推移している。

ひとつひとつ手作りで
作られるメタルサイン



新製品開発に提案制度導入

新製品の開発に注力するなか、従業員にアイデアを提供してもらう提案制度を3年前に設けた。この制度では、従業員が提案した案が採用された際、そして商品化しHPへ掲載された際に一時金が支給される。さらに画期的なのは、商品が売れると、初回販売日から1年間、一定の利益分配があること。つまり、商品が売れば売れるほど、提案者本人に臨時収入が多く入ってくるという仕組みだ。「今の時代、大きな昇給やベースアップは厳しいものがあります。新製品の売れ行きが好調なら、会社にとってプラスですし、従業員のやりがいにも繋がります」と植平社長は語っている。この制度によって実際に、今までに商品化された製品は数多くある。



商品化された製品の一部【捕獲檻（左上）、ハンモック（左下）、浮き棧橋（右上）、鋼製簡易階段（右下）】

商品化された製品の中でユニークなのは猪の捕獲檻だ。鉄製の製品にとって「錆」はタブー。しかし、捕獲檻は新品からすでに錆びている。新品の

鉄製品は独特の油のにおいがするが、猪はこのにおいを嫌って檻に近づかない。そこで、取って雨ざらしにして錆を付けることでにおいを消すことにしたそうだ。また、アウトドア等で重宝するハンモックは平成23年4月に「くろがね工房」の名前で楽天ショップでのネット販売も予定されている。

「人」を大切にする方針と今後の活躍

平成20年1月に就任した現社長、植平秀次氏の考え方は『あなたに出逢えて本当に良かった』という経営理念から窺い知ることが出来る。経営理念の「あなた」とは「新製品」であり、「取引先」であり、また「顧客」でもあるという。つまり、いろいろな「あなた」に本当によかったと思ってもらえるモノづくりをし、信頼を得るということだ。これは従業員や取引先など「人」を大事にするという社長の強い思いの表れであるといえよう。

さらに、同社では経営内容を広く開示している。経営の状況を明らかにして取引先や金融機関が安心して取引し、また従業員にも安心して働いてもらうためだ。その中で注目すべきが財務内容である。流動比率557.4%、当座比率421.7%、自己資本比率85.4%といずれも業界平均をはるかに上回る数字であり、同社の盤石な財務体質が一目でみてとれる。

昨年2月には品質および環境ISOの認証を再取得した。平成16年にいったん自己宣言（第三者の審査を受けず、組織自らが規格の適合性を確認）に変更したのだが、同社が作り出す製品のさらなる信用を確保するために再び取得したものである。ISO取得企業として環境面にも配慮し、地域貢献の一環として毎年100本の桜の苗木を地域に贈る「フラワーバンク」や地元小学校で環境問題を教える講座にも取り組んでいる。さらに、太陽光発電設備も昨年11月に設置完了した。

厳しい環境下にありながらも、モノづくりへの熱い想いと卓越した技術力を武器に、次々と新しい製品を開発している植平工業株式会社の今後さらなる発展に期待したい。（丸尾尚史、島田清彦）